

強者の戦略

第1回 南

～大学生活スタート！～

はじめまして、研伸館の地理科講師の南です。今回から何回続くか分かりませんが、京都大学の学生生活がどんなものなのかを、自分自身の経験を通して語っていきたいと思います。京都大学を目指している受験生、また、京都大学に興味のある様々な人が、少しでも“京都大学といふところ”を理解してもらえれば幸いです。当然私は大学院を卒業してから10年になりますので(1996年から2002年まで在学)、情報は古くなっているとは思いますが、それでもなお、私の書く文章は今の京都大学らしさを少なくない割合で描き出せると思います。では始めましょう！

私と京都大学との関係が始まったのは中学校に入学する少し前の春のことでした。通っていた塾の先生に引率されて(他の生徒も10人くらいいたような…)、なぜか京都大学へ遠足に行きました。どこをどう歩いたかまったく記憶にはないですが、それでも、何か歴史を感じさせる雰囲気感動したのは覚えています。そこからじわじわと「自分はここに通うんだ」と思い始めて勉強を続けていました。

現役のときはセンター英語が失敗しすぎて、傾斜配点的に唯一救われた総合人間学部に出願し(今の配点とは違います)、39度の高熱にうなされながらあえなく不合格、浪人のときはセンターが普通ぐらだったので法学部を諦め、偏差値的に低そうな文学部に出願しました。現役のときは、京都大学まで発表を見に行つて不合格の烙印を押されるというはずかしめを受けたので、浪人の時はレタックスを待っていました。でも、レタックスが届く前に友人から電話がかかってきて、開口一番「おめでとう！！」と言われました。結構、あつけないものですね。そんなに感動の潮が訪れることはなかったです。ちょうど12:00ぐらだったと思いますけど、その時間から京大の合格発表掲示板に向かいました。さすがに、掲示板の自分の番号を見たときは、「あーこのためにがんばってきたんやなー」とものすごくほっ

としましたね。で、友人と一緒に晩御飯を食べて、「今日は合格でうれしいやろ！うれしさ余って俺におごりなさい！」とか言われて、「まじかいな～」とか思いながらも、おごってあげました。

ちょっと思い出話が過ぎた気がしますので、そろそろ大学生活をスタートさせましょう。まず、合格したら語学を決めなければなりません。フランス語・ドイツ語・中国語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・韓国語(私が1年生だった時は選択できませんでした)などに分かれています。何となく、みんなと同じが良かったら、フラ語・ドイ語・チャイ語(こう略されてました)を選び、マイナーでも自分の道を突き進むのであればスペ語・イタ語・ロシア語を選択して下さい。私は、ジャッキーチェンにあこがれていたのももちろん中国語を選択しました。でも、実際ジャッキーチェンの話している言語は広東語だったので、中国語を学んでもジャッキーまでの千里の道の一步を進めたにすぎません。あー残念です。ちなみに文学部の友人に「チャイ語なんて、やめなチャイって～」と言われました。文学部にはこんな独特な人が一杯いますよ、きっと(笑)。

次に、語学の希望カードとか、何かの提出書類を出しに行く日が1日あったと思います。ここでがんばろうと思ったんです。文学部合格者には誰も友人がいなかったので、提出のため窓口まで並んでいる列の、私の前の人か後ろの人に話しかけようと思いましたが。でも、前に並んでいる人物は何となく誰か分かってしまいました。見たことのある制服でした。しかも、その制服の人は、恐らく京大オープン・実戦で夏・秋合わせてすべて1位(4冠)を獲得していた人物に違いないと！文学部受験者からしたら超有名な人が目の前にいる状況に緊張してしまって話しかける気を失いました。後日談ですが、この人とは話すようになりました。でも優秀すぎて、フランス語の先生とフランス語で話をしていました。そのくせがぬけずに私の話の相槌にも「ウィー、ウィー」

強者の戦略

言っていました(フランス語の「はい」は「ウィー」なのです)。文学部にはこんな優秀な人が一杯いますよ、きっと(驚)。そして、唾然としているうちに後ろに並んでいる人にも話しかける気力を失って、結局誰とも仲良くなることなくこの日を終えました。

実は、このリベンジを果たす日はすぐにやってきました。健康診断の日です。入学式の前に健康診断があって、体重や身長、聴力や視力を測る日が3月終わりぐらいにあったと思います。そしてここでも長い列ができて、長い時間かかってその列が進みまです(たぶん女子が朝早くで、男子は 11:00 ぐらいからです)。再びチャンス到来です！今回も列の前と後ろを精査し、話やすそうな人に照準を絞ります。後ろの人が目が大きいながら優しそうな人物だったので勇気を出して話しかけてみました。

南：「どこの学部の人ですか？」

Mくん：「文学部です。」

南：「ぶ、文学部なんですか！？僕も文学部です。南と言います！」

Mくん：「Mと言います。島根出身です。」

ついに初友人ゲットです。この友人とはサークルめぐりをするようになりました。サークルの話はまたの機会に致しましょう。

時は移ろい、入学式の日がやってきます。私は自宅生だったので(7年間という京大生活ずっとです)、朝早く起き、入学式開始ぎりぎりの時間に百万遍の交差点まで辿り着きました。入学式が行われる体育館まではもう目と鼻の先です。ところがここで不幸なことに腹痛に襲われ、百万遍の交差点に当時あった電脳遊技場のお手洗いに駆け込み(現在はパチンコ店です)、トイレの中で入学式の開始を迎えました。その後、急いで体育館に向かうものの、どこが文学部の人が集まっているところかも分からないので、入館をあきらめ、入学式が終わるまで、体育館前の

階段にずーと座っていました。寒かったから早くどこかの中に入りたかったのですが、入学式後に「茶話会」なるものが開かれて、文学部生活のこれからの流れ説明&パーティーが開かれることは知っていたので、この「茶話会」には出なければならなかったのです。ただ、この「茶話会」、どこで開かれるのかさっぱり知りません。だから、入学式終了を待って、文学部の列にまぎれて連れて行ってもらった作戦に出ました。体育館前の階段でぼーと待っているうちに、スーツを着た新生入生がぞくぞくと出始めると、その通りがかる人々に「あなたは文学部生ですか？」と聞きまくり、何分か後に、「文学部生ですけど」という発言を頂きました。そして、何食わぬ顔をして、ずーとその人の後をついていき、見事に「茶話会」に参加です。



体育館前の階段



2010年の入学式

強者の戦略

私は文学部1組(通称L1。LiteratureのLなんだと思います。全部でL4までありました)で、茶話会はクラスごとに分かれていました。もうドキドキの瞬間ですよ。クラスのメンバーとの初めての顔合わせです。L1の2年生がしきっていて、色んな説明をしてくれたとは思いますが、今となっては何も覚えていません。一応、50人くらいのクラスで全員順番に立ち上がって一言挨拶する時間があって、その緊張はすごかったです。待っている間に、頭の中で自己紹介コメントがちょいちょい変わったりしましたが、きっと無難な発言をしたと思います。中にはオリジナルの一発ギャグとかを披露する人もいて、とても微妙な空気が流れまくってました(笑)。

そして18:00ぐらいからお店でパーティーが開かれました。色んな人と話しましたが、最初は出身地の話とかがメインだったですね。阪神淡路大震災のこととかも聞かれました。あとは、翌日どの授業を受けるのかの話になりました。大学って月曜日から始まると思っていたら大きな間違いですよ。私のときは入学式が木曜日で、翌日の金曜日から授業開始です。どうせだったら月曜日からにした方がいいのと思いましたが、そうは問屋が卸さず。パーティーの後で夜遅く自宅に帰るにも関わらず、翌日は6:00起床ということになりました。今回はここまでにしておきましょう。次回は、授業開始からの話をしていきます。